

料金別納郵便



日本陶磁協会 現代陶芸奨励賞 中国・四国 受賞記念

金重周作 展

令和4年3月24日(木)~30日(水) 会期中無休

開廊時間：午前11時~午後7時(最終日30日は午後5時まで)

作家在廊日：会期中、全日在廊予定

日本陶磁協会 現代陶芸奨励賞は、地方のつくり手を発掘し奨励するため、開催年ごとに対象地域を変えながら行う公募展です。北海道、北陸、近畿に続き、令和2年には中国・四国地方を対象に「鑑賞」「茶陶」「生活の器」の三部門で公募しました。その受賞を記念した個展を開催いたします。

金重周作さんは、「生活の器」部門で、備前焼の質感やフォルムの伝統性を踏襲ながらも、成型方法や焼成方法を工夫し自分らしさをかたちに表現している点が高く評価されました。

祖父に金重素山、父に有邦氏、大叔父は金重陶陽。陶芸家になるべくして生まれた家にながら、意外なことにやきものの世界に飛び込んだのは、30歳に手が届きかけたときでした。やがて「陶工房 旂(ゆう)」の立ち上げを機に参加し、備前焼に限定せず幅広く食の器をつくられていることは、多くの方が知るとおりです。ここで周作さんは、釉薬を使った器を担当しています。

周作さんが手かける備前焼は、陶陽や素山がつくり上げてきた姿とはどこか違います。今回の個展では食器だけでなく、茶を喫む器、花を活ける器など、日常の生活がつねに器と共にあってほしいという願いもこめて、さまざまな器を出品しました。

思考を重ね技法を駆使して生み出されたそれは、桃山よりももっと前の鎌倉や室町時代のこの素朴な雰囲気を醸し出しています。備前焼の本丸に、これからどう挑んでいくのか。そのスタートをご覧ください。

坂井基樹 (公益社団法人日本陶磁協会 事務局長)

柿付ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

160-0022 東京都新宿区新宿3-37-11 安与ビルB2階
03-3352-5118 gallery@kakiden.com
https://www.kakiden.com/gallery/

公式Instagram



コロナ禍の影響で、会期と作家在廊日等の変更や、オンライン展示のみの可能性もございます。
お手間で恐縮ですが、弊ホームページや公式SNSにて、最新情報をご確認頂ければ助かります。



金重周作 陶歴

昭和 53 年 岡山県生まれ
平成 13 年 慶応義塾大学 環境情報学部 卒業
平成 20 年 父 金重有邦に師事
平成 23 年 金重有邦門下三名で「陶工房 旂」設立
令和 2 年 日本陶磁協会 現代陶芸奨励賞 中国・四国「生活の器」部門